

28KA-am07

医療人GP「チーム医療の有用性を実感する参加型学習」の構築と実施

○木内 祐二¹, 山元 俊憲¹, 戸部 徹¹, 中村 明弘¹, 伊藤 喬¹, 亀井 美和子¹,
倉田 なおみ¹, 大井 浩明¹, 高宮 良介², 高木 康², 中村 雅典³, 片岡 竜太³,
鈴木 久義⁴, 田中 一正⁵, 倉田 知光⁵, 工藤 一郎¹(¹昭和大薬, ²昭和大医, ³昭和大
歯, ⁴昭和大保, ⁵昭和大教)

【目的】現代の医療ではチーム医療の実践が強く望まれているが、大学での教育は各学部の専門性に特化し、チーム医療の学習は積極的には実施されていない。昭和大では、文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」で採択された「チーム医療の有用性を実感する参加型学習」の事業計画で、薬・医・歯・保健医療の医療系4学部から成る本学の特色を生かしたカリキュラムを構築し、平成18年度からの6年制カリキュラムに導入した。学部横断学習を含む1～3年次の参加型学習によりチーム医療の基盤構築を試みたので、そのプロセスと実施状況を報告する。

【方法】薬学部内のチーム医療学習推進プロジェクトを中心に4学部合同カリキュラムワーキンググループと協力してカリキュラムを作成した。1年では全寮制教育を活かし、4学部合同PBLチュートリアル「チーム医療の基盤」と学部合同実習を含む「早期体験学習」からなるコース「医療人マインドの獲得と共感」を実施した。2年では学内外の医療・福祉施設での参加型学習「診療の流れを知る」と「福祉の現状を知る」からなるコース「医療・福祉のプロセスを体験する」を実施した。3年では4学部合同PBLチュートリアル「チーム医療による薬物治療」と救急・外科医療の体験学習「救急医療・外科医療と薬剤師」からなるコース「チーム医療で患者と薬物に目を向ける」の20年度からの実施を準備している。

【結果】1、2年次のカリキュラムは4学部600人のPBLチュートリアル、約80の医療・福祉施設での実習など、大規模な学習となったが、本学の理念の実現を目的に、全学の協力のもとに順調に実施された。学生の取り組みも良好で、入学後早期からチーム医療の重要性を理解し、その基盤が醸成されたと思われる。